

The Emerging Market Weekly

国際為替部
マーケット・エコノミスト
佐々木 貴彦
03-3242-7065
takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周
03-3242-7065
amane.saito@mizuho-bk.co.jp

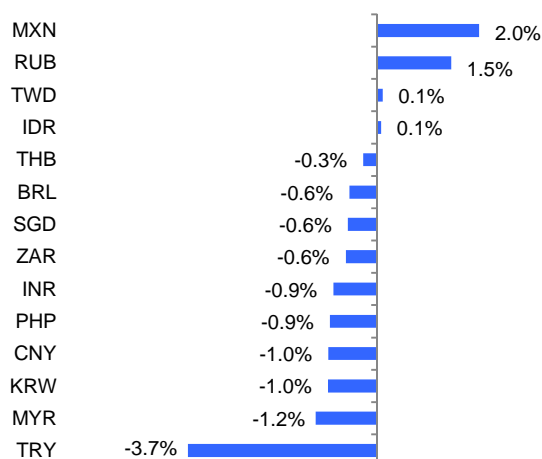
今週のエマージングマーケット

資源国通貨は上昇も、その他新興国通貨は軟調な展開

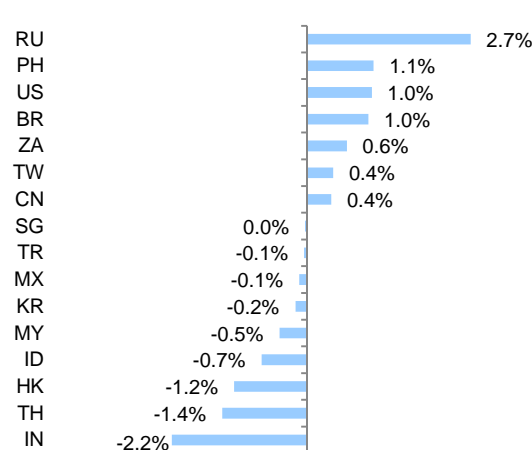
今週の新興国通貨はまちまちな展開。先週末はトランプ次期大統領が掲げる拡張的な財政政策への期待が続く中、米 11 月ミシガン大学消費者マインドの良好な結果を背景にドルは上昇し、新興国通貨は下押しされた。週初もその流れを引き継ぎ、新興国通貨は軟調推移となった。15 日、サウジアラビアのファリハ・エネルギー相が「OPEC 増産凍結を支持する必要がある」と発言したことにより、減産合意に対する期待の高まりから原油価格が上昇し、資源国通貨は連れ高となった。16 日はブラッド・セントルイス連銀総裁の「12 月の利上げは妥当」との発言を受け、米 12 月利上げ期待が高まりドル高が進むと、新興国通貨は下落した。17 日、イエレン FRB 議長が議会証言で「比較的近い次期に利上げが適切になる」と発言したことを背景に、ドルは続伸し、新興国通貨は軟化した。

個別通貨で見ると、米利上げ期待の高まりを背景に、海外からの資金調達依存度の高さが懸念された TRY (▲3.7%)、MYR (▲1.2%) は下落した。TRY は国内の政治的不透明感も引き続き重石となっている。一方、先週大幅に下落した MXN (+2.0%) は買い戻された。また、原油価格の上昇に連れ RUB (+1.5%) は値を伸ばした。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

エマージングマーケット短期見通し

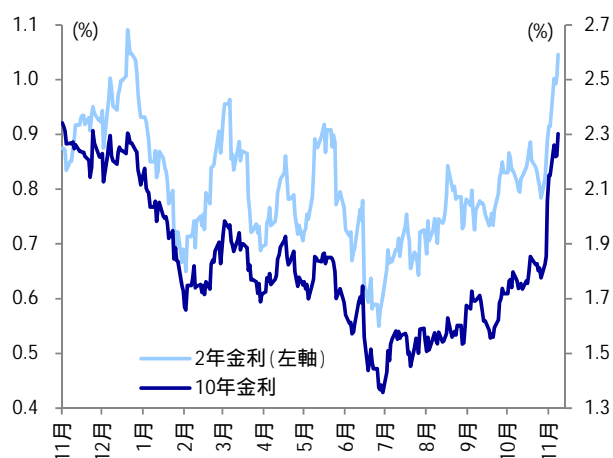
米12月利上げ期待を背景に新興国通貨は軟調推移を予想

米大統領選におけるトランプ氏の勝利後、米金融市場では同氏が主張する拡張的な財政政策への期待から、先週までは株高・金利急上昇で反応し、為替市場ではドル高・新興国通貨安が急速に進行した。今週に入り、新興国通貨は落ち着きを取り戻し始め、TRY など一部の通貨を除き下落幅は先週よりも縮小している。新興国通貨下落の速度が緩んだ背景にはポジション調整もさることながら、トランプ次期大統領による閣僚候補者の選定が遅々として進んでいないことも影響していると考えられる。11日、政権移行チームを率いてきたクリスティー・ニュージャージー州知事が解任され、クリスティー氏に近いとされてきたマイク・ロジャーズ氏やマシュー・フリードマン氏がチームから離脱した。16日には、司法省の人選を担当していたケビン・オコナー氏も離脱を表明するなど、政権移行チーム自体がまとまりを欠いている模様だ。今後も同様の事態が続くと、トランプ次期大統領が掲げる経済政策への期待が後退し、ドル高の勢いが鈍化する可能性もある。もともと、FRB 高官が相次いで大統領選の結果は経済に影響を及ぼすと現時点では判断できないとし、年内利上げに影響がない旨を示唆する中、勢いは鈍りつつもドル高基調は継続すると考える。そのため、来週の新興国通貨は軟調推移が続くと予想する。

TRY 安に伴いトルコ経済の急減速に対する懸念が強まるか

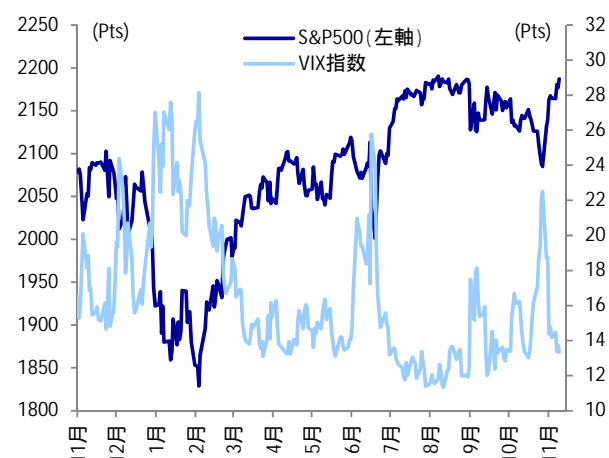
多くの新興国通貨が徐々に落ち着きを取り戻す中、今週も TRY は急落した。トルコは短期対外債務(満期が1年未満)が対外貨準備比で104%(2014年時点、世界銀行)と安全性の目安である100%を越えている。そのため、TRY 大幅安になると企業の資金繰りが窮し、景気の落ち込みに繋がりがやすい。しかしながら、エルドアン大統領周辺からは相変わらず利下げを優先すべきとの主張が聞かれるなど、TRY 下落に対する政府の危機感は薄い模様だ。斯かる状況下、TRY は下落を続け、トルコ経済が急減速する懸念は強まっていくと見込んでいる。

図表1: 米国債利回りの推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表2: 米株とVIX 指数の推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

マレーシア：金融政策決定会合プレビュー

MYR 安を背景に政策金利は据え置きか

23 日（水）に開催されるマレーシア中銀（BNM）の金融政策決定会合では、現状の金融政策が維持されると予想する。前回会合（9 月 7 日）では政策金利が 3.00% に据え置かれた。声明文では、主要国における経済と金融政策に関する不確実性や、英国の EU 離脱（Brexit）問題が世界経済の下振れリスクになっていると述べている。マレーシア経済については、輸出は低迷するも、民間投資の加速や個人消費が底堅く伸びるとの見方を示した。そのため、マレーシア経済は当初の予想通り安定的に推移するとしている。なお、マレーシア 9 月消費者物価指数（CPI）は前年比+1.5%と 8 月（同+1.5%）から伸び率は横ばいとなるも、低下基調が続いている。国内の経済情勢は安定する一方、トランプ次期大統領による大胆な景気刺激策への期待を背景にドル高が進んだことで、MYR は急落した。BNM は 11 日に MYR 相場について、ファンダメンタルズにそぐわない水準で取引されるべきでないとの見解を示し、市場安定のため一時的な措置を取るよう銀行に指示する責任が BNM にはあると述べた。ムハマド BNM 総裁は「マレーシア経済のファンダメンタルズと関係の無い要因に影響されたくない」と MYR 安を強く懸念する発言をしている。こうした発言に鑑みれば、BNM は MYR の急落を防ぐため、今回の会合では政策金利を据え置くと予想する。

トルコ：金融政策決定会合プレビュー

TRY 安加速を受け、CBRT は現状の金融政策を維持か

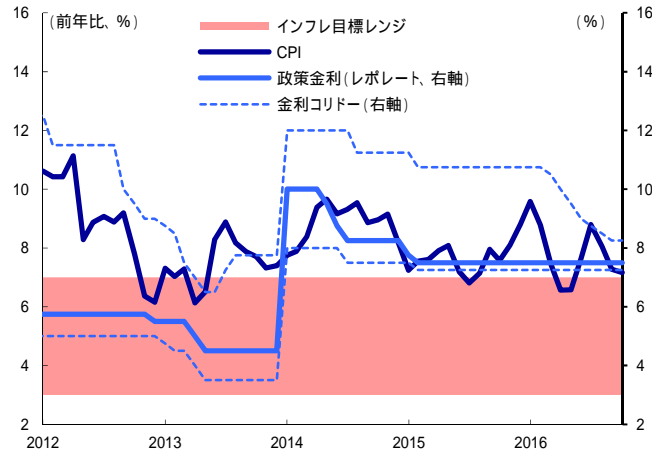
24 日（木）に開催されるトルコ中銀（CBRT）の金融政策決定会合では、現状の金融政策が維持されると予想する。前回会合（10 月 20 日）では、政策金利であるレポレート、金利コリドーの上限である翌日物貸出金利及びコリドー下限である翌日物借入金利は据え置かれた。前々回会合（9 月 22 日）まで金融政策簡素化に向け 7 会合連続で翌日物貸出金利が引き下げられていたため、前回会合での据え置きはサプライズだった。前回会合の

図表 3： マレーシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 4： トルコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

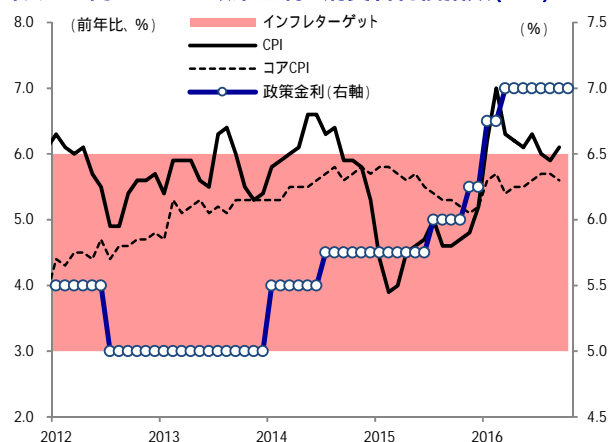
声明文では、直近の為替相場などがインフレ見通しの改善を阻害しており、慎重な金融政策スタンスを維持する必要があるとした。TRY が会合前に対ドルで史上最安値を更新するなど、急落の様相を見せていたことを受け、翌日物貸出金利の引き下げを見送った模様だ。足許、トルコ 10 月 CPI は前年比+7.2%と 9 月（同+7.3%）から減速している。しかし、4 日にトルコ議会第三党でありクルド系主要政党である国民民主主義党（HDP）の党首を含む 11 人の議員が逮捕されたことを背景に、政治的混乱への懸念から TRY は続落した。それに加え、トランプ次期大統領が掲げる拡張的な財政政策に対する期待からドル高が進む中、TRY は更に下落し対ドルで過去最安値を更新している。そのため、前回会合で TRY 安に対して警戒を示した CBRT は、今回の会合でも現状の金融政策を維持すると考える。

南アフリカ：金融政策決定会合プレビュー

SARB は ZAR 相場動向を見極めるため、政策金利を据え置きか

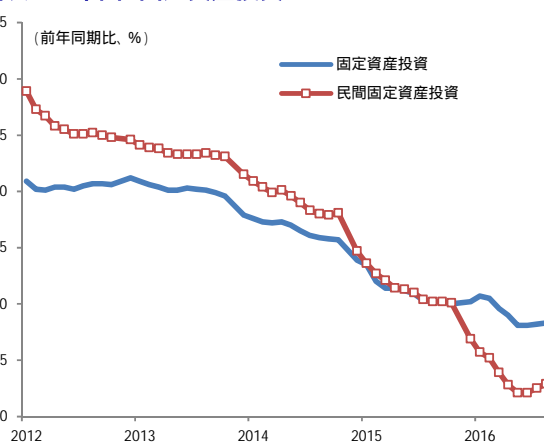
24 日（木）に開催される南アフリカ準備銀行（SARB）の金融政策決定会合において、政策金利は据え置かれると予想する。前回会合（9 月 22 日）では、政策金利は 7.00%に据え置かれた。政策決定の理由について、SARB の予想以上に ZAR 高が進んだことで、インフレ率の上振れリスクと下振れリスクが均衡しつつあることが指摘されている。また、今後の金融政策姿勢に関しては、「金融引き締めサイクルの終了に差し掛かっている可能性がある」とした。一方で、「金融緩和に転じるためのハードルは高い」とも述べられ、SARB の中立的なスタンスがうかがえる。会合後に発表された経済指標を見ると、9 月製造業生産は前年比+0.0%（8 月：同+2.2%）と景気にやや弱い動きも出ている。また、9 月 CPI は前年比+6.1%と 8 月（同+5.9%）から小幅に加速したが、コア CPI（飲食料品、エネルギーを除く）は同+5.6%と前月（同+5.7%）から小幅に減速するまちまちな結果となった。米大統領選後に金融市場の混乱が広がっていることに加え、

図表 5: 南アフリカ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6: 中国 固定資産投資



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

国内景気が後退に陥っておらず、物価動向も横ばいが続いている中では SARB は市場動向を見極めるためにも政策金利を据え置くだろう。

中国：小売売上高は減速も、固定資産投資は持ち直し

10 月の経済指標は総じて見れば、安定推移となる指標が多い

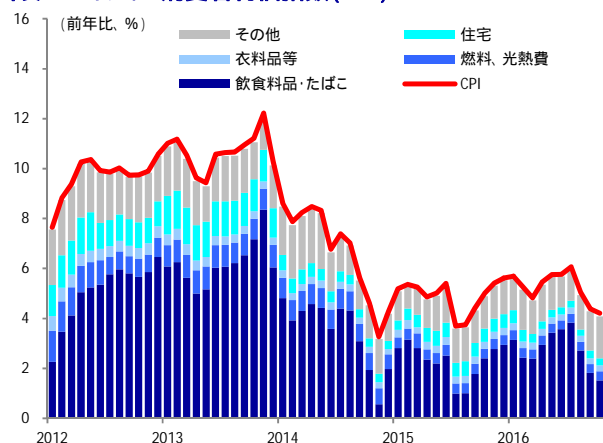
14 日に発表された一連の経済指標は強弱入り混じる結果となった。10 月鉱工業生産は前年比+6.1%と 9 月（同+6.1%）から伸び率は横ばいとなり、1～10 月固定資産投資は前年同期比+8.3%と 1～9 月（同+8.2%）から僅かに加速した。7 月までは減速が目立っていた民間部門の固定資産投資が同+2.9%と 3 か月連続で伸び率が拡大したことは明るい材料となっている。一方、10 月小売売上高は前年比+10.0%と 9 月（同+10.7%）から減速し、2016 年 5 月以来の低水準に陥った。背景には、全体の伸びを牽引してきた自動車販売が同+8.7%と 9 月（同+13.1%）から大きく減速したことが影響している模様だ¹。10 月の中国経済指標は、一部で弱い動きが見られたが、多くの指標が安定推移を続けており、年末にかけて中国経済が失速する可能性は低いことを示唆している。なお、7 日に楼財務相の交代が突然発表され、後任として肖・國務院副秘書長が就任することとなった。財政改革を重視していた楼財務相が解任され、習近平氏に忠実と見られる肖氏が新財務相になったことから、市場では中国政府が成長重視路線を強めており、来年は大規模な財政政策が実行されるという見方が出始めている。

インド：10 月 CPI は引き続き減速

インフレ率減速も、RBI は年内について政策金利を据え置きか

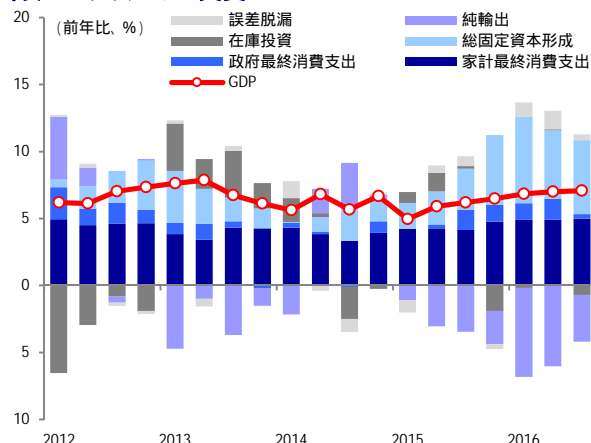
22 日に発表されたインド 10 月 CPI は前年比+4.2%と 9 月（同+4.9%）から減速し、2015 年 8 月以来の低水準になった。モンスーン期（雨期）における例年並みの降水量を背景に引き続き飲食料品価格の伸びが減速（9 月

図表 7: インド 消費者物価指数(CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 8: フィリピン 実質 GDP



(資料) CEIC、みずほ銀行

¹ 中国統計局は小売売上高全体に対する商品別内訳を公表していない。内訳が公表されているのは、売上が 2000 万元以上の卸売企業など、一定以上の規模を超える企業が計上した売上に対してのみ。

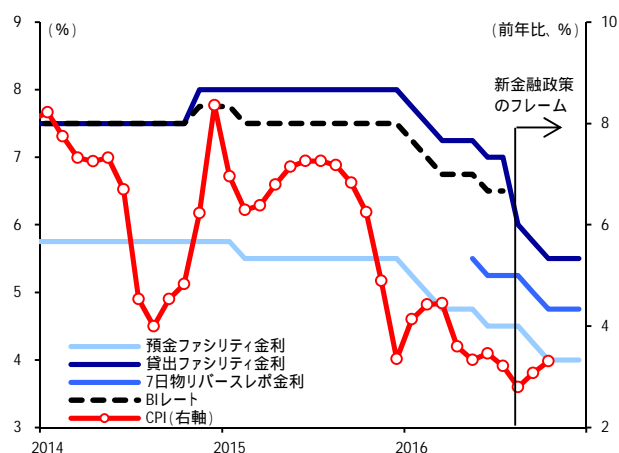
：同 4.0%→10 月：同+3.2%）したことがインフレ率低下の主因となっている。一部では、今回のインフレ率低下を受けてインド準備銀行（RBI、中央銀行）が 12 月 7 日の会合で追加利下げに踏み切るのではないかと見る向きもある。もっとも、米大統領選でのトランプ氏勝利を受けたドル高相場の中、ルピーは 9 日から 15 日にかけて▲1.7%下落している。RBI はルピー相場下支えのためにドル売り介入を行っている模様で、ルピー下落への警戒感は強いだろう。そのため、10 月 CPI の減速は追加緩和の後押し材料となる一方、世界的な金融市場の混乱を受けて、年内について RBI は政策金利を据え置くと予想する。

フィリピン：7～9 月期 GDP は 6 四半期連続で加速

家計最終消費支出は予想外に底堅い結果

17 日に発表されたフィリピン 7～9 月期 GDP は前年比+7.1%と 4～6 月期（同+7.0%）から伸び率が拡大し、6 四半期連続で加速した。内訳を見ると、政府最終消費支出（4～6 月期：同+13.5%→7～9 月期：同+3.1%）が大幅に減速する一方、家計最終消費支出（4～6 月期：同+7.4%→7～9 月期：同+7.3%）は予想外に小幅な減速となった。我々は当初、2016 年 5 月のフィリピン大統領選挙に伴う一時的な支出拡大の剥落により 7～9 月期の家計最終消費支出は減速すると見込んでいた。しかしながら、ドゥテルテ新政権に対する期待の高まりを背景に、消費者マインドが高水準で推移したこと、海外フィリピン人労働者（OFW）送金も 7～9 月期は同+5.4%と安定したことで、家計最終消費支出は底堅さを保った模様だ。なお、輸入（4～6 月期：同+23.2%→7～9 月期：同+14.2%）が減速したことにより、純輸出が前年比寄与度▲3.5%ポイントと 4～6 月期（同▲6.0%ポイント）から縮小したことが 7～9 月期 GDP 加速の主因となっている。ドゥテルテ政権は経済のボトルネックとなっているインフラ整備を積極的に進めるこ

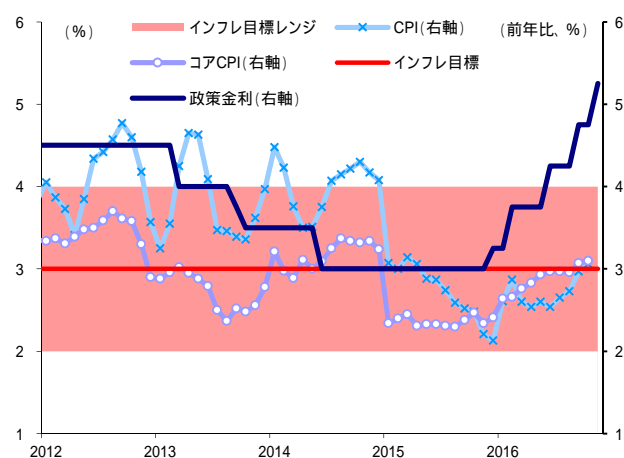
図表 9：インドネシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(注) 7 日物リバースレゴ金利は、5 月から発表が開始され、8 月から正式に政策金利に採用された

(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 10：メキシコ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料) CEIC、みずほ銀行

とを示唆し、実際2017年度予算案でもインフラ支出をGDP比5.4%と2016年度（同5.1%）から拡大している。そのため、積極的な政府支出や底堅い個人消費などを背景にフィリピン経済は今後も高水準の成長率が続く予想する。

インドネシア：金融政策決定会合レビュー

米大統領選の結果を見極めるため BI は現状維持

17日に開催されたインドネシア中銀（BI）の金融政策決定会合では、7日物リバースレポ金利（政策金利）が4.75%に据え置かれた。また、市場金利の上限となる貸出ファシリティ金利は5.50%、下限の翌日物借入ファシリティ金利は4.00%に維持されている。声明文では、今回の決定は「米大統領選の結果をきっかけとした国際金融市場の動揺に対するBIの慎重姿勢と整合的」とした。また、選挙後に一時大幅下落を見せたルピア相場に関しては「BIは為替相場の市場メカニズムを維持しながら、経済ファンダメンタルズに沿った水準に安定化させ続ける」とし、急激な変動に対する警戒感を示している。こうした背景には、約4割（2016年7～9月期：39.2%）と他新興国通貨に比べて高い、インドネシア国債における外国人投資家の保有比率があるだろう。トランプ次期米大統領の経済政策における不透明感は強く、場合によってはインドネシアからの資金流出とIDRの続落をもたらす可能性もある。そのため、次回会合（12月14日）にかけてもBIの資金流出入動向や相場動向への警戒姿勢が続く見込みだ。

メキシコ：金融政策決定会合レビュー

BOMは引き続きMXN相場を注視

17日に開催されたメキシコ中銀（BOM）の金融政策決定会合では、政策金利が50bp引き上げられ、5.25%となった。声明文では、米大統領選によるトランプ氏の勝利を受けて、メキシコ経済の先行きについて不透明性が高まっているとした。特に米国が貿易や資本移動に制限を設けようとしている事態について強い懸念を示しており、メキシコ経済の下振れリスクは更に大きくなったと述べた。今回の利上げについては、MXN安に伴うインフレ上昇圧力を抑制するためとし、今後も為替動向を注視していくとした。なお、インフレ見通しについては、年内は目標値（+3.0%）近辺で推移するも、2017年は目標値を超えて推移するとしている。2018年については、MXNが急落しなければ再び+3.0%近辺に戻るとした。次回会合（12月16日）の直前に開催されるFOMC（12月13日～14日）では利上げが行われる公算が大きい。そのため、BOMは資本流出とそれに伴うMXN安を防ぐために、次回会合では追加利上げに踏み切ると予想する。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
11月11日 (金)	中国	10月 新規貸出 (人民元)	672.0b	651.0b	1220.0b	--
11日 (金)	中国	10月 マネーサプライM2(前年比)	11.4%	11.6%	11.5%	--
11日 (金)	マレーシア	3Q GDP(前年比)	4.0%	4.3%	4.0%	--
11日 (金)	マレーシア	3Q 国際収支:経常収支MYR	2.0b	6.0b	1.9b	--
11日 (金)	インド	9月 鉱工業生産(前年比)	0.5%	0.7%	-0.7%	--
11日 (金)	韓国	韓国銀行7日間レートの	1.25%	1.25%	1.25%	--
11日 (金)	インドネシア	3Q 国際収支:経常収支	-\$4535m	-\$4493m	-\$4700m	-\$5000m
14日 (月)	中国	10月 鉱工業生産(前年比)	6.2%	6.1%	6.1%	--
14日 (月)	中国	10月 小売売上高(前年比)	10.7%	10.0%	10.7%	--
14日 (月)	中国	10月 固定資産投資	8.2%	8.3%	8.2%	--
15日 (火)	インド	10月 貿易収支	-\$9000.0	-\$10160.0	-\$8339.6	--
15日 (火)	インド	10月 卸売物価(前年比)	3.7%	3.4%	3.6%	--
15日 (火)	インド	10月 消費者物価指数 (前年比)	4.2%	4.2%	4.3%	4.4%
15日 (火)	インドネシア	10月 貿易収支	\$1010m	\$1207m	\$1217m	\$1271m
15日 (火)	フィリピン	9月 海外送金(前年比)	5.1%	6.7%	16.3%	--
17日 (木)	シンガポール	10月 非石油地場輸出(前年比)	-3.0%	-12.0%	-4.8%	-5.0%
17日 (木)	フィリピン	3Q GDP(前年比)	6.7%	7.1%	7.0%	--
17日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行 預金ファシリティ・レート	4.75%	4.75%	4.75%	--
18日 (金)	フィリピン	10月 総合国際収支	--	--	\$117m	--
21日 (月)	タイ	3Q GDP(前年比)	3.5%	--	0.6%	--
21~25日	シンガポール	3Q GDP(前年比)	--	--	0.6%	--
23日 (水)	シンガポール	10月 消費者物価指数(前年比)	--	--	-0.2%	--
23日 (水)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	--	--	3.00%	--
25日 (金)	韓国	11月 消費者信頼感	--	--	101.9	--
25日 (金)	マレーシア	10月 消費者物価指数 (前年比)	--	--	1.5%	--
25日 (金)	台湾	3Q GDP(前年比)	--	--	2.1%	--
中東欧・アフリカ						
11月11日 (金)	トルコ	9月 経常収支	-1.95b	-1.68b	-1.78b	-1.53b
11日 (金)	ロシア	9月 貿易収支	6.9b	7.4b	4.9b	--
14日 (月)	ロシア	3Q GDP (前年比)	-0.5%	-0.4%	-0.6%	--
18日 (金)	ロシア	10月 実質小売売上高(前年比)	-3.0%	--	-3.6%	--
22日 (火)	トルコ	11月 消費者信頼感指数	--	--	74.0	--
23日 (水)	南アフリカ	10月 消費者物価指数(前年比)	--	--	6.1%	--
24日 (木)	トルコ	指標レートの	--	--	7.50%	--
24日 (木)	トルコ	翌日物貸出金利	--	--	8.25%	--
24日 (木)	トルコ	翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
24日 (木)	南アフリカ	SARB政策金利発表	--	--	7.00%	--
ラテンアメリカ						
11月16日 (水)	ブラジル	9月 IBGEセクター部門売上高 前年比	-4.6%	-4.9%	-3.9%	--
17日 (木)	ブラジル	9月 経済活動(前年比)	-3.7%	-3.7%	-2.7%	-2.6%
22日 (火)	ブラジル	10月 経常収支	--	--	-\$465m	--
23日 (水)	ブラジル	10月 IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	8.3%	--
23日 (水)	メキシコ	3Q GDP(前年比)	--	--	2.0%	--
23日 (水)	メキシコ	9月 経済活動IGAE(前年比)	--	--	2.9%	--
24日 (木)	ブラジル	11月 FGV消費者信頼感	--	--	82.4	--
24日 (木)	メキシコ	9月 小売売上高(前月比)	--	--	0.6%	--

(注)2016年11月18日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2016年 1～10月(実績)	SPOT	2016年 12月	2017年 3月	6月	9月	12月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.4528 ~ 6.7868	6.8781	6.73	6.77	6.80	6.83	6.85
香港ドル	(HKD)	7.7488 ~ 7.8295	7.7575	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.071 ~ 68.789	67.828	67.5	68.5	67.0	66.3	65.5
インドネシアルピア	(IDR)	12886 ~ 14002	13373	13200	13150	12850	12650	12600
韓国ウォン	(KRW)	1089.72 ~ 1245.13	1176.03	1160	1140	1120	1100	1080
マレーシアリング	(MYR)	3.8442 ~ 4.4415	4.3945	4.18	4.23	4.12	3.98	3.95
フィリピンペソ	(PHP)	45.860 ~ 48.713	49.495	48.8	48.6	47.8	47.0	46.8
シンガポールドル	(SGD)	1.3313 ~ 1.4444	1.4209	1.38	1.39	1.36	1.35	1.33
台湾ドル	(TWD)	31.006 ~ 33.791	31.829	31.90	31.70	31.40	31.10	30.90
タイバーツ	(THB)	34.49 ~ 36.42	35.50	35.5	34.4	34.3	33.8	34.0
ベトナムドン	(VND)	22059 ~ 22535	22420	22380	22350	22260	22210	22230
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	61.8332 ~ 85.9573	64.8707	64.50	63.00	63.00	60.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.2008 ~ 17.9169	14.4264	14.50	15.00	15.50	15.00	15.00
トルコリラ	(TRY)	2.7901 ~ 3.1273	3.3702	3.20	3.30	3.40	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.1022 ~ 4.1720	3.4211	3.20	3.22	3.25	3.27	3.30
メキシコペソ	(MXN)	17.0507 ~ 19.9333	20.4325	19.00	18.80	18.50	18.50	18.20
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	14.964 ~ 18.563	15.920	14.86	14.48	14.26	14.06	13.87
香港ドル	(HKD)	12.835 ~ 15.615	14.201	12.89	12.63	12.50	12.37	12.24
インドルピー	(INR)	1.468 ~ 1.823	1.622	1.48	1.43	1.45	1.45	1.45
インドネシアルピア	(100IDR)	0.740 ~ 0.896	0.824	0.758	0.745	0.755	0.759	0.754
韓国ウォン	(100KRW)	8.488 ~ 10.267	9.338	8.62	8.60	8.66	8.73	8.80
マレーシアリング	(MYR)	24.173 ~ 29.357	24.782	23.92	23.17	23.54	24.12	24.05
フィリピンペソ	(PHP)	2.072 ~ 2.570	2.203	2.05	2.02	2.03	2.04	2.03
シンガポールドル	(SGD)	72.61 ~ 85.54	77.53	72.46	70.50	71.32	71.11	71.43
台湾ドル	(TWD)	3.077 ~ 3.671	3.461	3.13	3.09	3.09	3.09	3.07
タイバーツ	(THB)	2.814 ~ 3.412	3.103	2.82	2.85	2.83	2.84	2.79
ベトナムドン	(100VND)	0.4466 ~ 0.5482	0.4905	0.45	0.44	0.44	0.43	0.43
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.359 ~ 1.718	1.699	1.55	1.56	1.54	1.60	1.58
南アフリカランド	(ZAR)	6.397 ~ 7.806	7.636	6.90	6.53	6.26	6.40	6.33
トルコリラ	(TRY)	32.827 ~ 41.265	32.684	31.25	29.70	28.53	27.43	27.14
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	27.727 ~ 33.633	32.199	31.25	30.43	29.85	29.36	28.79
メキシコペソ	(MXN)	5.024 ~ 7.018	5.391	5.26	5.21	5.24	5.19	5.22

(注)1. 実績の欄は10月31日まで。SPOTは11月18日の7時20分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。
(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。